質問順位	9	質問者	高橋 江海子 議員		
件名		項目		要旨	メモ
1. 市民生活行政		1. 免許返納率の向上について		<p>1. 高齢者による交通死亡事故は、コロナ禍で公共交通機関の利用を避けた高齢運転手の増加もその一因にあると報道され、滝川警察署によれば、滝川市での免許返納数は年々減少し、昨年度はコロナ禍前の約半分程度であったことを把握している。他方、周辺の自治体では数に大きな変動はなく、むしろ砂川市での免許返納数は増加傾向にある。</p> <p>公共交通機関の利便性を上げることが、免許返納率の上昇につながると考えるが、砂川市で導入済の乗合ワゴン等を本市でも導入するなど、公共交通の拡充について見解を伺う。</p>	
2. 児童福祉行政		1. 保育におけるICT化について		<p>1. 厚生常任委員会の視察で訪問した大阪府の認定こども園では、ICTの活用により、業務の効率化と職員の負担軽減が図られただけでなく、保護者の利便性や安心感につながったほか、ゆとりができた保育士と保護者が子どもたちと直接向き合える時間が増えたことが大きな効果であったことを確認した。また、砂川市では、共通のICTシステム「コドモン」を市内全ての保育所と小中学校に導入したところである。DX推進を掲げている本市としても、若年層の多い保育分野でのICT活用を検討してはどうかと考えるが、見解を伺う。</p>	
		2. 学童保育の環境整備について		<p>1. NHKによると全国の学童保育の実態は、今年5月時点で待機児童数が1万7千人近くに上っており、利用者ニーズが高まっている。男女共同参画社会の観点からも学童保育はなくてはならない重要な福祉サービスであり、先日こども家庭庁から、学童保育の職員確保の強化に向けた給与改善や人数規定の変更について発表がなされたところである。本市の現状として、不足する学童業務を補うため、市職員が対応しているとプレス空知に掲載されていたが、必要な職員数の確保を含め、どのように学童保育を運営していくのか考えを伺う。</p>	

質問順位	9	質問者	高橋 江海子 議員	質問内容	要 旨	メ	モ
					<p>2. 市内の学童保育では、上級生によるいじめやからかいによって下級生が泣きながら帰ってきたり、行くのを渋ったり、行けないことで最終的に母親が仕事を調整しなければならなくなる事態が発生していると聞いているが、このことについて、本市ではどのような取り組みを行っているのか、また、これからの展開を伺う。</p>		
					<p>3. 厚生労働省の放課後児童クラブ運営方針には、『発達成長過程にある子どもの成長に合わせて、放課後の時間帯に必要とされる栄養面や活力面を考慮して、おやつを適切に提供する。』とある。現在、滝川市内の学童では各家庭におやつを持参を求めており、これは保護者の負担になっているだけでなく子どもたちの格差にもつながっている面もあると考える。</p> <p>歌志内市、深川市や砂川市では、おやつ代を利用料と合わせて徴収し、みんなで同じものを食べているので、滝川市でも、近隣自治体を参考にみんなで同じ物を食べられるようしてはどうかと考えるが、見解を伺う。</p>		
3. 教育行政		1. 学校開放日について		<p>1. 学校は、基本的に正面玄関以外は施錠され、正面玄関から入る場合は、受付窓口で目的や氏名等を記入しなければならない。しかし、学校開放日は、いずれの玄関も常に自由な出入りが可能であったため、私としては防犯面での不安を感じた。</p> <p>不特定多数の人々が入り出す学校開放日には、例えば、犯罪抑止力として人を配置する、予約制にする、あるいは氏名等を記入する等の一定程度の対策を行ったほうが良いと考えるが、見解を伺う。</p>			

質問順位	9	質問者	高橋 江海子 議員		
件名		項目	要旨	メモ	
		2. 音楽ホールの構想について	<p>1. 新ホールの建設について、具体的構想を発表する前に市民の生の声を聞いてもらいたいとの思いから、市長との懇談を要望する声が文化団体や吹奏楽部の関係者から寄せられている。</p> <p>滝川出身の文化人や市内の文化団体及び現役の吹奏楽部員や顧問等を交えながら市長との懇談を開催されてはどうかと考えるが、見解を伺う。</p>		